

## 『助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健 第6版』 正誤表

このたびは『助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健 第6版』をご購入いただきまして誠にありがとうございます。

第1刷（2023年1月15日発行）におきまして以下の誤りがございました。ここに訂正させていただきますとともに深くお詫び申し上げます。

2023年3月15日作成

刷数	訂正箇所	誤	正	掲載																
1	p.230・表5-26	<p>縦列「具体的な医療活動」内、「数時間から72時間」「72時間から1週間」の項が上下逆になっております。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center;">急性期</td> <td style="width: 15%;"></td> <td style="width: 10%; text-align: center;">数時間から72時間</td> <td style="width: 70%;">被害状況が少しずつ把握できるようになり、ライフライン、交通が復旧はじめる。避難所または、在宅避難生活が始まる。被災地外からの救護班などの医療支援がはじまり、避難所巡回診療などが行われる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">72時間から1週間</td> <td>被災者の救出と救助、搬送。ライフライン、交通機関の途絶で被災地外支援が少ない。被災地住民は、危険を避けるために避難場所に避難する。災害派遣医療チーム(DMAT)、災害拠点病院が活動をはじめる。</td> </tr> </table>	急性期		数時間から72時間	被害状況が少しずつ把握できるようになり、ライフライン、交通が復旧はじめる。避難所または、在宅避難生活が始まる。被災地外からの救護班などの医療支援がはじまり、避難所巡回診療などが行われる。			72時間から1週間	被災者の救出と救助、搬送。ライフライン、交通機関の途絶で被災地外支援が少ない。被災地住民は、危険を避けるために避難場所に避難する。災害派遣医療チーム(DMAT)、災害拠点病院が活動をはじめる。	<p>正しくは以下となります。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center;">急性期</td> <td style="width: 15%;"></td> <td style="width: 10%; text-align: center;">数時間から72時間</td> <td style="width: 70%;">被災者の救出と救助、搬送。ライフライン、交通機関の途絶で被災地外支援が少ない。被災地住民は、危険を避けるために避難場所に避難する。災害派遣医療チーム(DMAT)、災害拠点病院が活動をはじめる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">72時間から1週間</td> <td>被害状況が少しずつ把握できるようになり、ライフライン、交通が復旧はじめる。避難所または、在宅避難生活が始まる。被災地外からの救護班などの医療支援がはじまり、避難所巡回診療などが行われる。</td> </tr> </table>	急性期		数時間から72時間	被災者の救出と救助、搬送。ライフライン、交通機関の途絶で被災地外支援が少ない。被災地住民は、危険を避けるために避難場所に避難する。災害派遣医療チーム(DMAT)、災害拠点病院が活動をはじめる。			72時間から1週間	被害状況が少しずつ把握できるようになり、ライフライン、交通が復旧はじめる。避難所または、在宅避難生活が始まる。被災地外からの救護班などの医療支援がはじまり、避難所巡回診療などが行われる。	2023/3/15
急性期		数時間から72時間	被害状況が少しずつ把握できるようになり、ライフライン、交通が復旧はじめる。避難所または、在宅避難生活が始まる。被災地外からの救護班などの医療支援がはじまり、避難所巡回診療などが行われる。																	
		72時間から1週間	被災者の救出と救助、搬送。ライフライン、交通機関の途絶で被災地外支援が少ない。被災地住民は、危険を避けるために避難場所に避難する。災害派遣医療チーム(DMAT)、災害拠点病院が活動をはじめる。																	
急性期		数時間から72時間	被災者の救出と救助、搬送。ライフライン、交通機関の途絶で被災地外支援が少ない。被災地住民は、危険を避けるために避難場所に避難する。災害派遣医療チーム(DMAT)、災害拠点病院が活動をはじめる。																	
		72時間から1週間	被害状況が少しずつ把握できるようになり、ライフライン、交通が復旧はじめる。避難所または、在宅避難生活が始まる。被災地外からの救護班などの医療支援がはじまり、避難所巡回診療などが行われる。																	